

「合格に向けて必要なこと」

私は、岩手大学理工学部の総合型選抜を受験し、合格することができました。

以前からプログラミングに興味がありましたが、高校での授業や部活動を通して更にプログラミングへの興味が深まり、岩手大学理工学部への進学を考えるようになりました。また、祖父母が高齢のために行動が不自由になってきたことや、地域の高齢者が転倒し起き上がれなくなっている場面を見かけたことなどがきっかけとなり、将来は、介護・医療機器の開発に携わりたいと思うようになりました。そこで、機械工学を基盤に知能ロボティクス分野の専門性を身につけるとともに地域と密接に関わりながら研究できる岩手大学理工学部の受験を決めました。

私は、総合型選抜Ⅰ地域協創ものづくりプログラムを受験しました。

一次選考は書類選考で、自己推薦書と志望理由書を作成し、提出しました。指定された文字数以内で自分の研究したい内容や志望理由を具体的に書かなければなりませんでした。研究内容が抽象的過ぎるということで、私は何度も書き直しをしました。

二次選考はプレゼンテーションと口頭試問でした。プレゼンテーションではこれまで取り組んできたものづくりをテーマにして、資料を事前に作成して、プレゼンに臨みました。大学の先生からの質疑応答もあるため、予想される質問への対策が難しかったです。

総合型選抜では特に、意欲やものづくりへの主体的な態度などが重視されます。1 年次からものづくりに関わる様々な大会に出場したり資格取得に取り組んだりすることで、ものづくりへの興味関心を深めるとともに、身につけた知識や技術を生かして、実際にものづくりを経験することが必要です。それが受験の際の自信につながりますし、研究したいことをについて考える材料になります。

また、研究したいことを、総合型選抜を受験する上で、具体的にしなければなりません。こんな人を支えたい、こんなものが欲しいといったような思いがものづくりの核になると思うので、それを見つけて実際に使われている機器を調べたり、大学のオープンキャンパスに参加し研究室を見てみたりすることで、自分の研究したいものを具体的にしていく必要があります。

受験に向けて沢山悩むことがあると思いますが、悩んだ分だけ自信になりますし、その分自分の力になっていきます。日々の授業や実習を大切にし、自分の将来と向き合ってコツコツと受験に向けて取り組んでいくことが合格に必要なことです。

「合格体験記」

私は、花巻市役所から一般事務の内定をいただきました。

3年生の春、進路を進学するか、就職するかで悩んでいました。特にやりたいこともありませんでした。では、なぜ就職を選んだのかというと、進学を選んだ場合ただらだと生活をし、大学の授業も真面目には受けないだろうと考えたからです。また、公務員になろうと思った理由も最初は、給料が安定しているからという理由からでした。

自分の進路を公務員にした私は、公務員コースを選んで猛勉強を始めました。2年生の進路選択ではほかのコースを選択していたこともあり、他の人と差がかなり開いていたため、3年生になってからは少しでも差をなくすため、専門学校で行われている公務員模試などにも進んで取り組みました。最初のうちはD判定が当たり前で、判定が思うように上がらず悩んでしまうこともありましたが、あきらめずに取り組むことで、徐々にA判定を何回かとれるようになり、自信をつけました。

一次試験では、岩手県庁と花巻市役所を受験しました。模擬試験などで対策をしていたこともあり、一次試験をどちらも合格することができました。二次試験では、花巻市役所だけ合格することができました。限られた時間の中で先生方と面接練習を行い、対策をして臨んだのですが、岩手県庁は本番で緊張してしまい、自分の言いたいことをうまく伝えることができませんでした。花巻市役所の最終試験では、無事に合格することができました。岩手県庁の面接試験での失敗をしっかりと生かして面接対策を行ったことで、合格をいただくことができてよかったです。

後輩へのアドバイスは、時間内に問題演習を何度も取り組み、できるだけ模擬試験を受け、ボランティアなどにも積極的に参加することです。模擬試験は何回も受けることで、解き方がわかるようになり、出題傾向や時間配分などもわかるようになります。ボランティア活動は面接試験でネタとして使うことができるので参加してください。